

どんぐり通信

森の図書館30周年

森の図書館は2026年4月10日で30歳を迎えました！
これからも、森の図書館をよろしくお願いします。
今号では、いろいろな「図書館」について書かれた本をご紹介します。



『虹いろ図書館のへびおとこ』（河出書房新社刊）櫻井 とりお／著
913.6/物/YA
小学6年生のほのかは転校先でのいじめをきっかけに、学校にいけなくなってしまった。だれにもいえず、いくあてを探していたときに、おんぼろ図書館にたどりつく。そこで出会ったへびおとこと呼ばれていたみどり色の司書、謎の少年、たくさんの本をきっかけに、少しずつほのかとそのまわりに変化が生まれていく。全6巻のシリーズ1作目です。

『小さなまちの奇跡の図書館』（筑摩書房刊）猪谷 千香／著

当たり前のようにあって、だれでも使える、市立図書館。でも、「図書館ってどうやって運営してるの？」と疑問に思ったことはありませんか？舞台は、鹿児島県指宿市のさびれつつあった図書館。「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」の大賞に選ばれるまで、どんな取り組みを行ったのでしょうか。その裏側を覗くことができる、図書館好きの方にぜひ読んでほしい一冊です。



『図書館のゆるゆる人生質問箱

中高生の悩み、質問、雑談に、図書館職員がお応えします！』
(ワニブックス刊) 北海道斜里町立図書館／著

159.7//YA
北海道東側の小さな町、中学校の隣にある図書館にある、中高生と図書館職員がやり取りをする匿名掲示板。そこに寄せられた中高生のいろいろな相談に、図書館職員がゆるっと真剣に回答しています。この本は、その掲示板の内容を厳選して紹介しています。

★この紙面で紹介しているすべての書籍は、流山市内の図書館で借りることができます。